

特 記 仕 様 書

甲府市令和5年版「土木工事共通仕様書」によること。また、これに特に定めのない事項については、国土交通省 関東地方整備局令和4年3月改定「土木工事写真管理基準」、「甲府市建設工事写真電子納品要領」、山梨県県土整備部監修令和5年1月改定『建設工事必携』または日本下水道協会発行の「下水道土木工事必携」によること。

なお、契約工期には、近隣工事等の調整協力も含まれており、下水道工事は本路線を使用する宅内排水設備完了までに完成するよう工程計画を綿密に立て工期内完成検査を厳守すること。また、工事中途において諸問題が発生したときは、早期に監督員と協議し指示を受けること。

協議及び承諾に関する特記仕様

- 設計内容に係る物はもちろん協議打合せに関する事項は、すべて〔工事打合簿〕によりその都度処理するものとし、了解・承諾のある前に施工した場合は、請負者の責任により行うこと。

施工上の注意に関する特記仕様

- 本工事において、起工測量の結果を監督員に提出するとともに現地の状況を十分把握し安全性、施工性、細部構造等の検討を行い、請負者の責任において施工すること。
また、労働安全衛生規則により、労働基準監督署に届けの必要がある場合はその写しを施工計画書または、工事打合簿により提出すること。
- 工事着工前には、周辺の地権者・耕作者・役員等立ち会ひのうえ、施工方法・施工時期等を説明しトラブルの無いようすること。また、必要に応じて立ち会ひ一覧表にサイン等をもらい提出すること。

段階確認等に関する特記仕様

- 段階確認にあたり、請負者は共通仕様書によるほか、次のものとする。
- 段階確認の施工計画作成
段階確認事項を確認し、段階確認予定時期を記した「段階確認工程表」を作成する。なお、施工計画書に含めて提出しなければならない。
 - 社内検査の実施
段階確認を受ける前には必ず社内検査を実施し、設計図書どおりの施工がなされているか事前確認すること。また、検査結果を整理し、監督員から請求があった場合は提出しなければならない。
 - 段階確認時の注意事項
段階確認においては、検査（確認）部分の出来形が確認できる資料を作成し、段階確認時に監督員に提示すること。
 - その他
段階確認の計画書について、監督員の承諾を得た場合は、請負者の様式により管理できる。

建設副産物処理に関する特記仕様

- 建設廃棄物の適正処理及び県内中間処理施設での優先処理
建設工事の施工により発生するコンクリート塊、アスファルト塊等は、廃棄物処理法に基づく許可を取得している再資源化施設で適正に処分すること。また、再生資源利用計画（実施）書及び再生資源利用促進計画（実施）書を提出し、その内容を説明すること。
なお、本工事から排出される廃棄物は、自県内処理が好ましいため、県内の再資源化施設で処分することに努めるものとする。
- 処理方法
中間処理許可業者への委託処理
- 運搬距離
アスファルト コンクリート
- その他
 - 工事請負後、速やかに施工計画書を監督員に提出し、承諾を得ること。
 - 中間処理業者に委託する段階で、泥、ゴミ、木片、金属類等を混入させないこと。
 - 中間処理業者に持ち込み後、速やかに建設廃材の処理状況を作成し、監督員に提出すると共に、工事関係書類に添付すること。
 - 受け入れ数量及び、中間処理業者が明記された受領書を委託時に受け取り、工事関係書類に添付すること。
 - 地中部分の構造物について設計図書と異なる場合は、監督員と協議すること。
 - この特記仕様書に明記されていない場合は、監督員の指示に従うこと。
 - この特記仕様書によりがたい場合または、疑問を生じた場合は、監督員と協議すること。
- 再生資源利用（計画・実施）書及び再生資源利用促進（計画・実施）書の提出

本工事は、建設副産物実態調査の対象工事であり、請負者は国土交通省のホームページから「建設リサイクル報告様式（計画書・実施書）（EXCEL 様式）」の最新バージョンをダウンロードし、作成出力した再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を出し、1部（紙）を施工計画書に添付し監督員に提出すること。（以前より使用していたクレダスを使用した様式での提出は不可）
再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書は、工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。

工事完了後は速やかに、当初入力した工事データを実績値に修正した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を出し、1部（紙）を完成書類に添付し、また、電子データを電子媒体（CD、DVD等）により監督員に提出すること。

なお、入力した工事データは自社で5年間保管すること。

*入力時に最新版を国土交通省のホームページからダウンロードして入手すること。

URL http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credastop.htm

- 建設リサイクル法対象建設工事の届出に係る事項の説明等

本工事は、建設リサイクル法の対象工事である。

落れ者は建設リサイクル法第12条に基づき、落れ後配布される書面により契約事務担当に、契約前に説明を行うこととする。

安全・訓練等の実施に関する特記仕様

- 安全・訓練等の実施
本工事の施工に際し、現場に則した安全・訓練等について、工事着手後、原則として作業員全員の参加により月当り半日（4時間）以上の時間を割り当て次の項目から実施内容を選択し安全・訓練等を実施すること。
 - 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
 - 本工事内容等の周知徹底
 - 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底
 - 本工事における災害対策訓練
 - 本工事現場で予想される事故対策
 - その他、安全・訓練等として必要な事項
- 安全・訓練等に関する施工計画書の作成
施工に先立ち作成する施工計画書に、本工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督員に提出すること。
- 安全・訓練等との実施状況報告
安全・訓練等の実施状況をビデオ等または工事報告（工事日誌等）に記録し、工事完成時に提出すること。なお、工事期間中であっても監督員が実施状況の確認を必要とする場合は、すみやかに提示すること。

安全管理に関する特記仕様

1. 交通管理
- 工事区域内の円滑な道路交通を確保するために、甲府市または山梨県県土整備部発行の「道路工事交通保安施設設置基準書(平成28年4月1日適用)」(以下、基準書)に示した安全施設について、工事現場内における標示施設・防護施設の設置及び交通整理員の配置、並びにこれらの管理の取り扱いを次のとおりとする。ただし、現場の状況により柔軟に対応し、第三者の安全には充分留意すること。
2. 一般事項
- ① 工事を行う場合は、発注者との協議並びに安全施設類設置参考図書に基づき必要な交通整理員の配置及び標示板等を設置すること。

② 夜間作業または昼夜間作業を行うときは、通行者に工事区間及び通行制限状況が明確に確認できるように必要な措置をとる。

③ 一般車両の侵入を防ぐ必要がある場合は、両面にバリケードを設置し、交通に対する危険の程度に応じて、赤ランプ、標柱等を用いて現場を囲む。

④ 工事現場における標示板及び防護施設は、堅固な構造とし所定の位置に整然と設置し、修繕・塗装・清掃等の維持及び保守点検を常時行うほか、夜間において遠方から確認し得るよう照明または反射装置を施すこと。

⑤ 施工に先立ち作成する施工計画書または工事打合簿に本工事の内容に応じた保安施設配置図等の具体的な計画を作成し、監督員に提出すること。
3. 特記事項
- ① 安全施設の設置時間

作業時間中は、基準書等により交通整理員を配置する。
現場着工時に基準書等により、必要な安全施設を設置する。
工事終了後、現場の後片付け等、交通開放に充分安全な期間まで、安全施設を設置し、現場を管理すること。

② 休憩時間等、作業を休止する場合も、通行者の安全に充分留意し、必要に応じて、交通整理員を配置すること。

③ 所轄警察署、地域住民等、第三者との協議による安全施設の変更は柔軟に対応し、交通の安全には十分留意すること。
4. 工事における安全施工
- 山梨県県土整備部発行の「土木工事安全施工技術指針(令和4年6月改正)」によること。

工事カルテに関する特記仕様書

- 請負者は、工事実績情報サービス（CORINS）入力システム（(財)日本建設情報総合センター）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認お願い」を作成し監督員の確認（機関印または監督員の記名・押印及び電子メールアドレスを記入）を受けたうえ、(財)日本建設情報総合センターに登録申請するとともに、「登録内容確認書」の写しを監督員に提出しなければならない。提出の期限は、以下のとおりとする。
- ① 受注時登録データの提出期限は、契約締結後10日以内（土・日曜日及び祝日等を除く）とする。

② 完成時登録データの提出期限は、業務完成後10日以内とする。

③ 業務履行中に、受注時登録データの内容のうち、「工期」または「現場代理人」または「監理・主任技術者」に変更があった場合は、変更があった日から10日以内（土・日曜日及び祝日等を除く）に変更データを登録申請しなければならない。工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。ただし、工事請負代金2,500万円を超えて変更する場合には変更時登録を行うものとする。

④ 訂正時は、適宜登録機関に登録申請をしなければならない。

関係法令等の遵守と手続きに関する特記仕様書

- 工事施工にあたっては、河川法、道路法、道路交通法、建設工事公衆災害防止対策要綱、労働安全衛生法等、関係諸法令、諸官庁の通達、工事施工に関する協定事項等を遵守し、諸官庁署への届出及び許可等の手続きは、すみやかに行い監督員に報告すること。

工期に関する特記仕様書

- 本工事の工期は、雨天・日曜日・祝日及び夏季休暇・年末年始休暇のほか、作業期間内の全土曜日を含んでいる。
ただし、やむを得ず休日に作業を行う必要がある場合は、監督員に届け出ること。

建設機械に関する特記仕様書

1. 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成17年法律第51号 最終改正平成29年法律第41号）」に基づく技術基準に適合する機械、または、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付建設省経機発第249号 最終改正平成22年3月18日付国総施第291号）」、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定（平成18年3月17日付国土交通省告示第348号 最終改正平成24年3月23日付国土交通省告示第318号）」もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領（平成18年3月17日付国総施第215号 最終改正平成28年8月30日付国総環第6号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用すること。ただし、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、排出ガス対策型建設機械と同等と見なすことができる。また、国土交通省のホームページにより確認すること。
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kensetsusekou/kankyom/mic/mic.htm#manual
ただし、これにより難い場合は、監督員と協議のうえ設計変更すること。
また、排出ガス対策型建設機械あるいは、排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、施工現場において使用する機械の写真撮影を行い監督員に提出すること。なお、指定機械であることを識別するラベルが添付されているので、確認できるように撮影すること。

- | 機 種 | 備 考 |
|--|--|
| 一般工事用建設機械 | ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。 |
| ・バックホウ
・トラクタショベル（車輪式）
・ブルドーザ
・発動発電機（可搬式）
・空気圧縮機（可搬式）
・油圧ユニット（以下に示す基礎工事用機械のうち、ベスマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの）
〔油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引拔機、油圧式杭圧入・引拔機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機〕
・ローラ類
〔ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ〕
・ホイールクレーン | |
2. 本工事において、「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針（昭和51年3月2日 建設省経機発第54号、建設大臣官房技術参事官から各地方建設局あて 最終改正昭和62年3月30日 建設省経機発第58号）」に基づき、低騒音型・低振動型建設機械の使用原則を図る場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成9年7月31日 建設省告示第1536号 最終改定平成13年4月9日 国土交通省第487号）」に基づき指定された建設機械を使用すること。
ただし、これにより難い場合は、その事由を証明する書類を提出の上、監督員と協議すること。
また、施工現場において指定機械であることを識別するラベルが確認できるように、建設機械を写真撮影し、監督員に提出すること。

高度技術・創意工夫・社会性等実施状況に関する特記仕様書

- 請負者は工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、所定の様式により提出することができる。実施前には計画書を監督員に提出し確認を受けること。

主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間に関する特記仕様

1. 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間：工事始期日以降30日以内）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。
2. 工事完成后、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、請負者に通知した日とする。

事業損失防止に関する特記仕様書

1. 工事施工期間中は、振動等の測定及び周辺施設の調査について監督員と協議し、必要と認められるものについて行うものとする。
2. 周辺施設及び騒音・振動調査
 - ① 周辺施設調査
施工区域の構造物の変位変形を測量、写真撮影などにより施工前、施工中、施工後及び必要に応じて随時行うこと。
 - ② 騒音・振動調査
騒音・振動調査については監督員と協議し、必要な場合は調査を行わなければならない。
 - ③ その他
規格・仕様書に規定がある試験または必要と認められる試験は、監督員の指示により請負者の負担で実施しなければならない。
3. 工事施工期間中、周辺施設に被害があった場合は、速やかに状況を調査し、監督員に報告しなければならない。
4. ここに定めなきことは、受発注者との協議により決定する。

保険の付保及び事故の補償等に関する特記仕様書

1. 請負者は、工事現場または事業場内に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示しなければならない。
2. 請負者は、工事契約締結後1ヶ月以内に建退共制度の発注者用掛金収納書を提出すること。ただし、工事契約締結当初は工場製作の段階であるため建退共制度の対象労働者を雇用しないこと等の理由により、期限内に発注者用掛金収納書を提出できない事情がある場合においては、あらかじめ監督員に申し出ること。
3. 請負者は、工事の施設に必要な土地・立木・施設等を撤去または損傷を与えた場合には、原形同等以上に復元しなければならない。また、既存樹木は、日照、通風、地下水等の生育条件をできるだけ変化させないような配慮をし、掘削等に伴う根系切断への対応のほか、周辺の地形の変化による生育基盤の変化等への対策を行うこと。
4. かのの修補または損害賠償の請求期間は、公共工事請負契約書第44条第2項に示すほか、次のとおりとする。植栽等1年。植栽等とは、樹木・地被類とする。ただし、移植及び根回し工事は適用除外とする。

法定外の労災保険の付保に関する特記仕様

本工事において、請負者は法定外の労災保険に付さなければならない。

下請施工体系図の作成及び提出に関する特記仕様

1. 「甲府市暴力団排除条例の施行に伴う、公共工事からの暴力団排除」を目的として、請負者は、下請負者を用いる場合には、金額・工種の如何にかかわらず、末端の下請負者まで反映させた「下請施工体系図」を作成し、遺漏・誤謬が無いよう記載内容を十分確認の上、遅滞なく監督員へ提出すること。
2. 提出した「下請施工体系図」の内容に変更が生じた場合は、その都度変更するものとし、遅滞なく監督員へ提出すること。
3. 提出は打合せ簿によるものとする。ただし、メールによる提出も可能なものとし、この場合は、後日、打合せ簿を提出すること。

土木工事写真管理基準に関する特記仕様

1. 本工事において、土木工事共通仕様書及び関東地方整備局土木工事写真管理基準に基づき写真管理を行うこと。また、納品方法については、甲府市建設工事写真電子納品要領を適用すること。
2. 工事写真の検査は、電子データで検査することを原則とするが、印刷物または電子データと併用で検査することも可能とし、その範囲は受発注者との協議による。また、検査に使用する機器の準備と操作は、受注者が行うことを原則とする。
3. ここに定めなきことは、受発注者との協議により決定する。

鉄筋探査に関する特記仕様

1. 補強工に先立ち施工箇所について鉄筋探査を行い、既設鉄筋の配置状況を確認しなければならない。
2. 鉄筋探査により鉄筋配置等の異常箇所が確認された場合は、直ちに監督員へ報告しなければならない。
3. 鉄筋探査の追加が必要と認められる範囲については、監督員と協議するものとする。
4. 鉄筋探査の結果を基に施工図を作成し、成果品として提出するものとする。

補強工に関する特記仕様

1. 補強工の施工は、ポストヘッドバー工法(Post-Head-bar工法(せん断補強工法特許第3676799号、せん断補強構造特許第3668490号、せん断補強補強方法3851643号))とする。
2. ポストヘッドバー工法は、(財)土木研究センター建設技術審査証明(建技審証第0522号)で規定する材料基準及び設計基準に従うものとし、当該工法による品質及び性能を確保できるものでなければならない。
3. 既設鉄筋の切断を避けるため、削孔機械は既設鉄筋との接触と同時に削孔を停止する等の機能を有するものであること。
4. 削孔位置は、図に示す位置及び間隔を標準とするが、事前に実施される鉄筋探査結果により図示した位置に削孔できないことが判明した場合、及び削孔中に既設構造物への支障が生じた場合は、削孔位置の変更等を検討し、監督員と協議した上で、削孔位置の変更を行うものとする。
5. 請負者は、下記に示す工種の施工段階において、段階確認を受けなければならない。
6. 材料の規格及び性能を確認するために必要となる試験項目については、JIS基準等の試験基準に基づき請負者が行うものとし、その試験結果及び試験成績表を監督員に提出しなければならない。

種 別	細 別	確 認 時 期	確 認 事 項
補強工 (ポストヘッドバー工法)	材料搬入	材料搬入時期	ポストヘッドバー及び充填材等の材料規格、長さ、数量
	削孔工	削孔前 削孔後	削孔位置 削孔長、削孔径、削孔間隔、孔内形状
	定着工	ポストヘッドバー挿入時	グラウト、モルタル充填状況
	断面修復工	断面修復後	外観状況

7. 使用材料の品質管理については、下記のとおりとする。(ポストヘッドバー工法)

材 料	項 目	規 格 値
ポストヘッドバー	引張強度試験	矩形プレート側摩擦接合部の引張強度≧鉄筋の規格引張強度
注入材	圧縮強度試験	既設コンクリートの設計基準強度 (21.0N/mm2) と同等以上の強度を有すること
拡大部修復材	圧縮強度試験	同上

8. 施工に先立ち、現地を詳細に把握するために現地調査を行い、補強箇所については、既設電源設備やケーブル位置等、周辺構造物の状況を把握するものとする。
9. 現地調査により、コンクリート表面に劣化等の施工に支障をきたすおそれがある事象が確認された場合は、対処方法を検討の上、事前に監督員と協議すること。
10. ポストヘッドバーの鋼材の加工は、工場で行うことを原則とする。加工したポストヘッドバーは、各鉄筋径において引張試験を実施し、摩擦圧接箇所の強度を確認するものとする。
11. 削孔後の孔内のほこり等は確実に除去してから補強鉄筋を設置し、既設コンクリートと同等以上の強度を有する充填材で定着させることとする。
12. 使用する注入材・拡大部修復材は、使用日毎に供試体を採取して一軸圧縮試験を実施し、28日強度が設計基準強度以上であることを確認するものとする。
13. 補強工の許容範囲は以下のとおりとする。
削孔位置：±10mm (削孔位置は鉄筋探査後に決定した位置を基準とする。)
補強筋挿入部削孔深さ及び拡大削孔深さ：0～±20mm
補強筋挿入部削孔径及び拡大削孔径：設計値以上
ポストヘッドバーかぶり：設計値以上 (ただし、既設鉄筋に支障が生じる場合は、防錆材を塗布し、許容する。)
14. 本工事で想定しているポストヘッドバー工法は特許工法であるため、当該工法の実施者は、特許権に係る実施契約を必要に応じて特許権者と締結するものとする。